

ヒータの温度制御

温度制御方法により、耐久性が異なります。

サーモスタット(バイメタル)を使用した場合
PID制御(無接点 半導体デバイス使用)の場合

サーモスタット(バイメタル)とPIDの特徴

- サーモスタットの特徴

非常に安価

制御温度 MAX150°C、3～5年程度の寿命(ヒータとしての保証は1年)

構造が単純

- PIDの特徴

無接点(半導体デバイス)なので、基本的には寿命は非常に長い

高価

ヒータの外付けになり、熱電対、電源ケーブルが必要

サーモスタット



- 開閉容量 5A 250V AC10000回(抵抗負荷)
- 安価
- 最近は、車載に使われ出し、信頼性も向上

小型PID温度制御 SSRと調節計が合体 コンパクトな温度制御ユニット

SSR内蔵1ch調節計 [温度調節計]

小形ボディにSSRと温度調節計を内蔵。
ヒータへダイレクトに接続し、省配線でコンパクトな
温度制御システムが構築できます。

● 負荷へダイレクト接続可能

ヒータラインと温度センサを接続すればすぐに温度制御ができます。
配線も全てコネクタ接続で、配線工数削減が実現します。



● 現場でもデータ設定・管理可能

SB1本体に表示器・設定キー・ローダ通信を搭載しています。

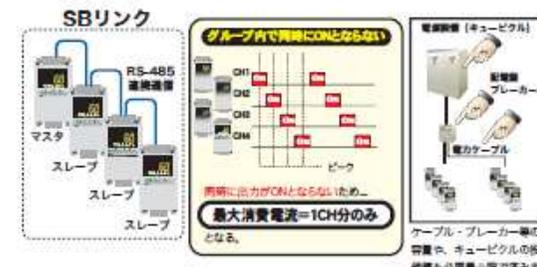


(*) 取付周囲温度により許容負荷容量が7A未満となる場合があります。

● 連携運転で省電力化

ピーク電流抑制機能 (SBリンク)

最大4台でグループ分けして出力リミッタをかけると、4台ともに同時にONとなりません。制御出力を常用負荷率付近にリミットすることで省エネルギー化にもつながります。 ※ホスト通信といずれかが選択となります。



もし、現在外国製ヒータ切れでお困りの場合

- サーモスタット制御によるラバーヒータを使用で、数年で切れてしまうといったお困りの場合
- 3年程度は寿命を延ばしたい ⇒ 日本製サーモスタットを使ったヒータに変更(安価) 但し、やはり寿命があります。
- 寿命を気にして使用したくは無い、基本寿命が長い方が良い ⇒ 小型PID制御によるヒータを推奨

ゲートバルブなど寿命によるトラブル等起こしたくない場合は、やはり信頼性の高い小型・日本製PID制御を推奨